

# I 調査概要

## 1. 1 調査の目的

県下全域の県民意識の把握とともに、県行政に対する県民の関心、満足度等を調査し、県政推進の基礎資料とする。

## 1. 2 調査の経緯

昭和42年から実施、今回47回目

※昭和42年～昭和61年：毎年実施 昭和63年～平成18年：隔年実施 平成20年～：毎年実施

## 1. 3 調査項目

- (1) 暮らしについて
- (2) 県の取組み全般について

## 1. 4 調査の設計

- (1) 調査地域 岐阜県全域
- (2) 調査対象 県内に居住する満18歳以上の男女個人
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送法・オンライン調査法の併用
- (6) 調査時期 令和6年7月1日～7月24日
- (7) 調査実施機関 株式会社中部タイム・エージェント

## 1. 5 回収結果

	調査時期	標本数 (A)	回収数 (B)	有効回答数 (C)	回収率 (B/A)	有効回答率 (C/A)	有効回答数の うちオンライン 回答数・割合
第47回 (令和6年度)	令和6年 7月	3,000	1,699	1,699	56.6%	56.6%	458 27.0%
第46回 (令和5年度)	令和5年 7月	3,000	1,758	1,758	58.6%	58.6%	416 23.7%
第45回 (令和4年度)	令和4年 8月	3,000	1,616	1,616	53.9%	53.9%	434 26.9%

## 1. 6 標本誤差

調査結果には統計上多少の誤差が生じることがあるため、調査結果をみる場合、一定の幅を持たせてみる必要がある。その幅を標本誤差といい、以下の式で表される。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{P(100-P)}{n}} \quad (\text{ただし、} P: \text{回答比率 } n: \text{回答者数})$$

すなわち、標本誤差の幅は①回答者数 ( $n$ ) 及び②回答比率 ( $P$ ) によって異なる。上式を用いた各回答者数、回答比率における標本誤差を以下の表に示す。

		P (回答比率 %)									
		5 又 は 95	10 又 は 90	15 又 は 85	20 又 は 80	25 又 は 75	30 又 は 70	35 又 は 65	40 又 は 60	45 又 は 55	50
n (回答者数 人)											
総数	1,699	1.0	1.4	1.7	1.9	2.1	2.2	2.3	2.3	2.4	2.4

(注) 1. 層化を行った場合、誤差は上表より若干増減することもある。

2. この表の見方は以下のとおりである。

「ある設問の回答者数が 1,699 人であり、その設問中の選択肢の回答比率が 50%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.4%である。」

## 1. 7 報告書の見方

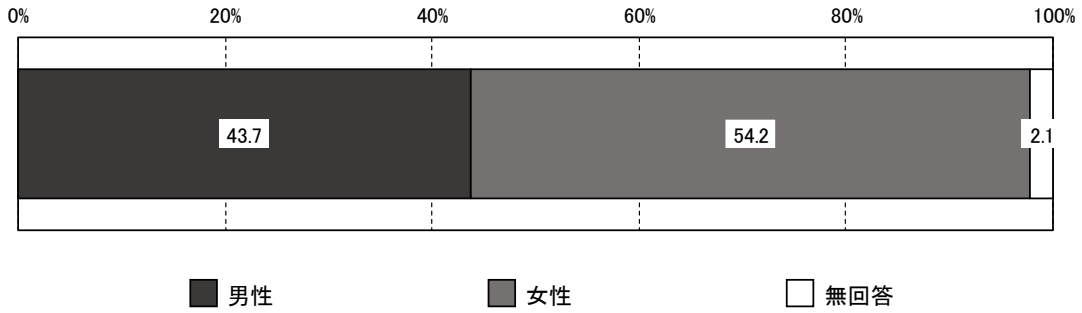
- (1) 比率は全てパーセントで表し、小数点第 2 位を四捨五入して算出した。そのため、パーセントの合計が 100.0%にならない場合がある。
- (2) 基数となるべき実数は「n」(件数)として掲載した。したがって比率は、n を 100%として算出している。
- (3) 複数回答が可能な設問では総回答数を「N」として掲載した。その場合、その項目を選んだ人が、回答者全体のうち何%を占めるのかという見方をする。したがって、各項目の比率の合計は、通常 100%を超える。
- (4) 本報告書中の表、グラフ及び本文で使われている選択肢の表現は、本来の意味を損なわない程度に省略している場合がある。
- (5) クロス集計において、年代別の 18～19 歳の属性はサンプル数が少なく、分析に堪えないことから、グラフへの表示及び分析を行っていない。

# 1. 8 対象者の属性

## F-1 性別

図 F-1 性別

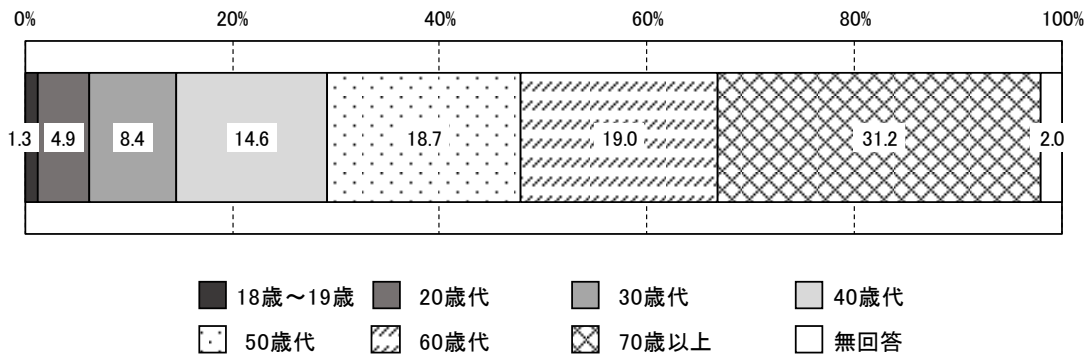
回答者数 (n = 1,699)



## F-2 年代

図 F-2 年代

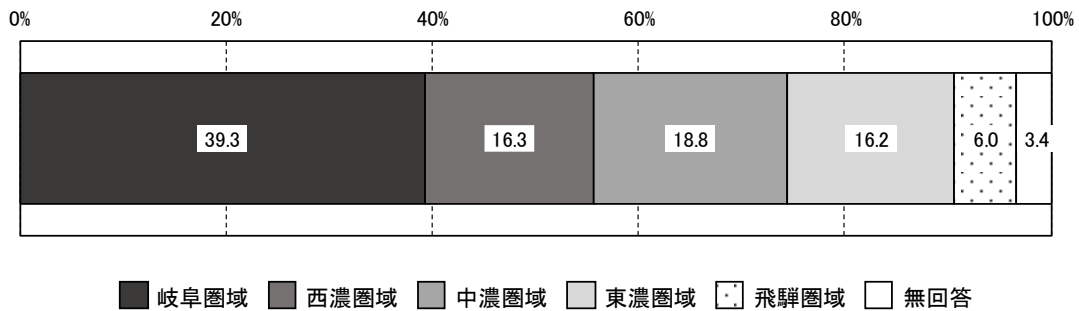
回答者数 (n = 1,699)



### F-3 居住圏域（5分類）

図 F-3 居住圏域（5分類）

回答者数 (n = 1,699)

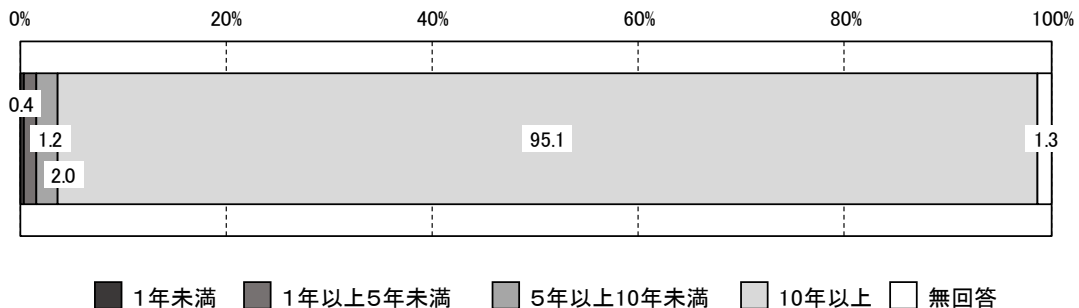


岐阜圏域（岐阜市・羽島市・各務原市・山県市・瑞穂市・本巣市・岐南町・笠松町・北方町）  
 西濃圏域（大垣市・海津市・養老町・垂井町・関ヶ原町・神戸町・輪之内町・安八町・揖斐川町・大野町・池田町）  
 中濃圏域（関市・美濃市・美濃加茂市・可児市・郡上市・坂祝町・富加町・川辺町・七宗町・八百津町・白川町・東白川村・御嵩町）  
 東濃圏域（多治見市・中津川市・瑞浪市・恵那市・土岐市）  
 飛騨圏域（高山市・飛騨市・下呂市・白川村）

### F-4 居住年数

図 F-4 居住年数

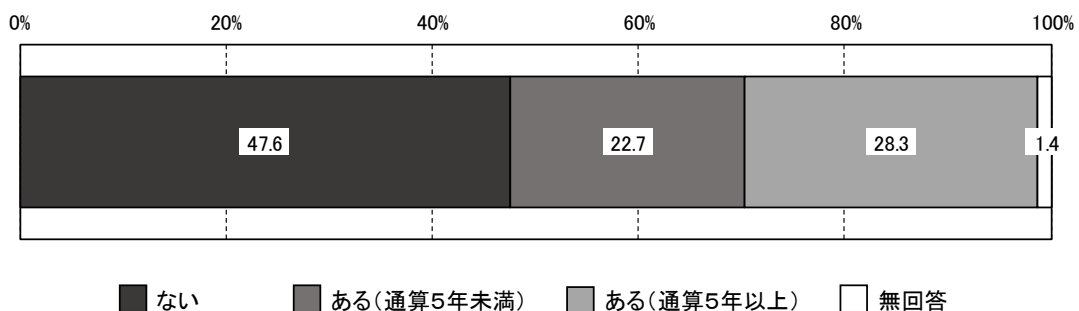
回答者数 (n = 1,699)



### F-5 県外居住経験の有無

図 F-5 県外居住経験の有無

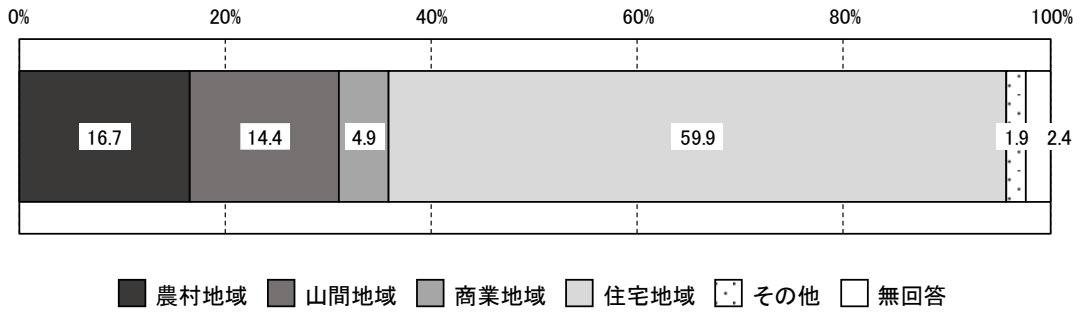
回答者数 (n = 1,699)



F-6 居住地周囲の環境

図 F-6 居住地周囲の環境

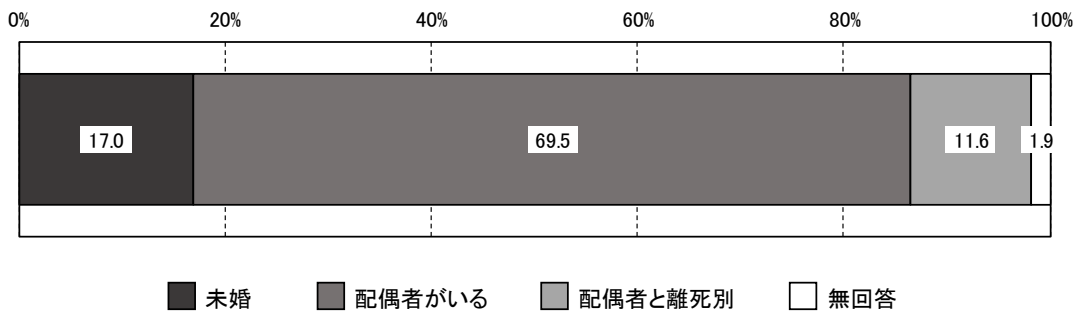
回答者数 (n = 1,699)



F-7 配偶者の有無

図 F-7 配偶者の有無

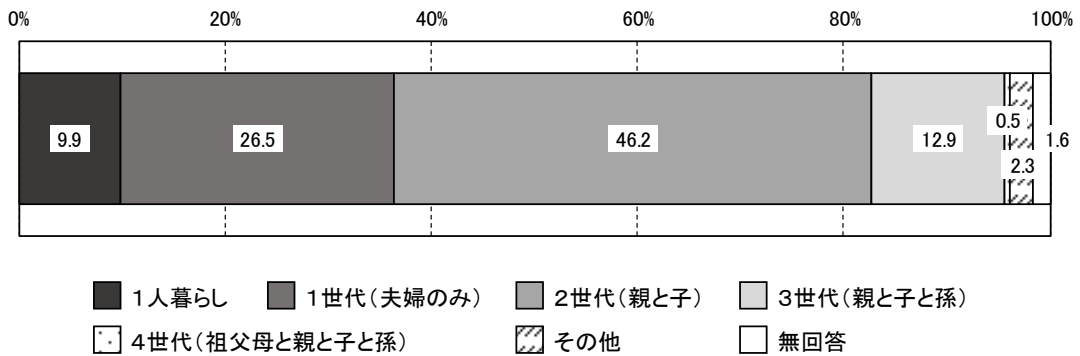
回答者数 (n = 1,699)



F-8 家族形態

図 F-8 家族形態

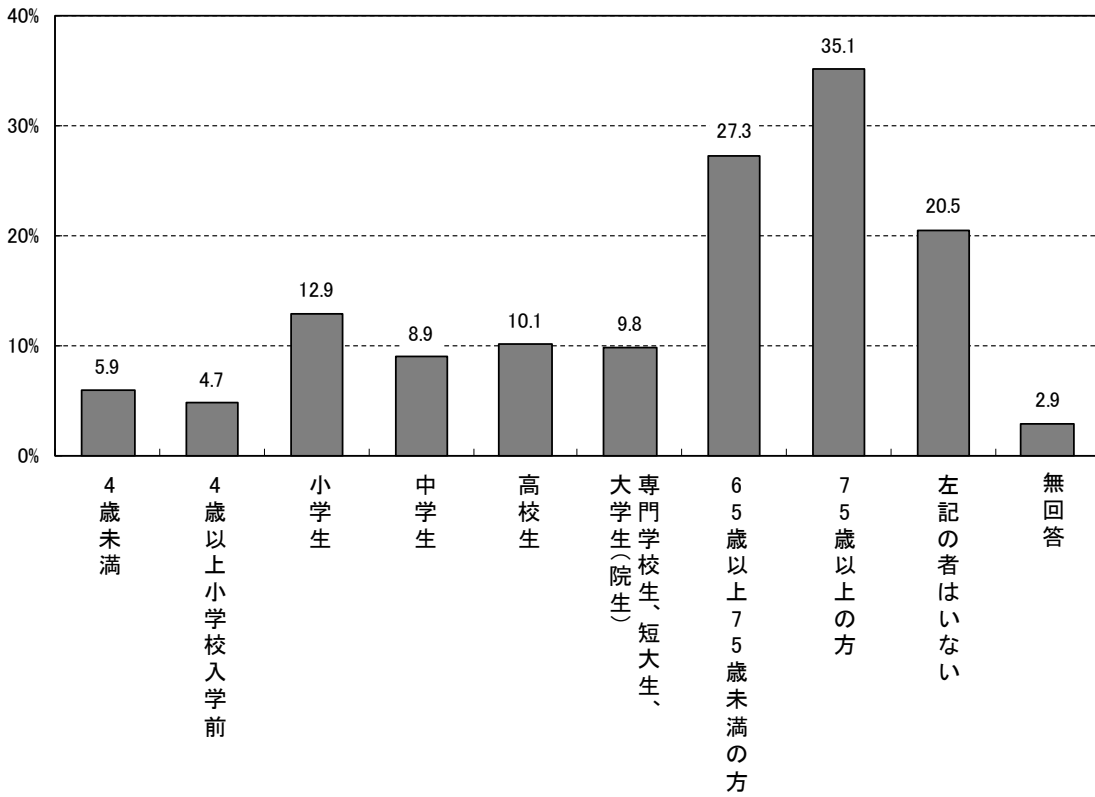
回答者数 (n = 1,699)



F-9 家族構成

図 F-9 家族構成

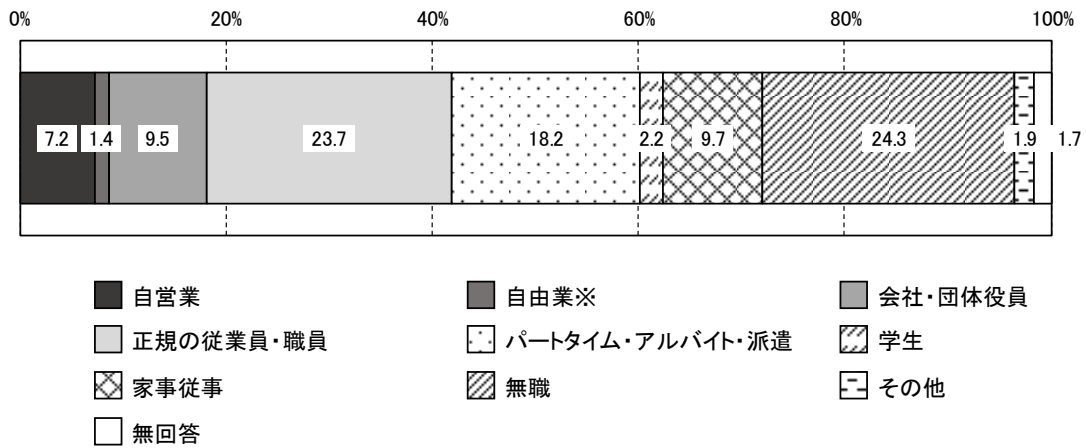
回答者数 (n = 1,699)  
 総回答数 (N = 2,346)



F-10 職業

図 F-10 職業

回答者数 (n = 1,699)

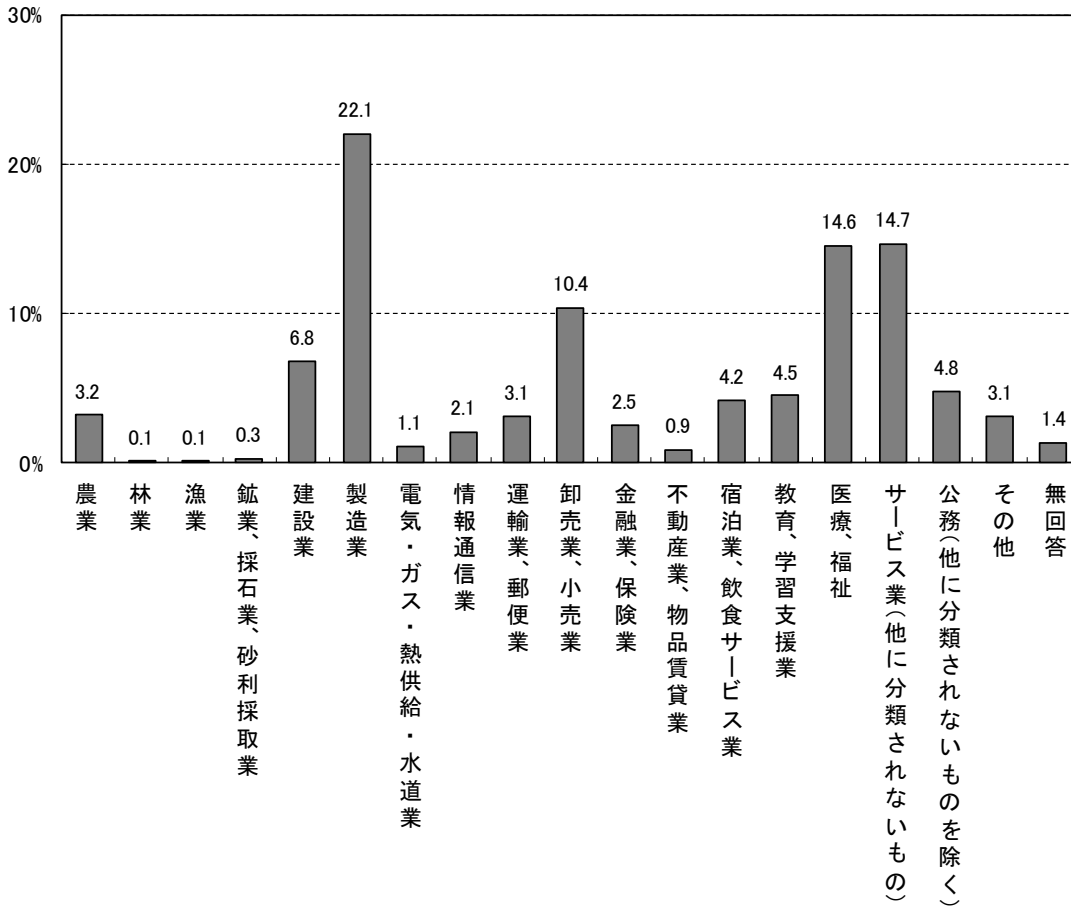


※ 自由業：一定の雇用関係によらず、勤務時間その他の制約を受けない職業で、作家、弁護士、医師、会計士、税理士、芸術家など

F-11 業種

図 F-11 業種

回答者数 (n = 1,021)※

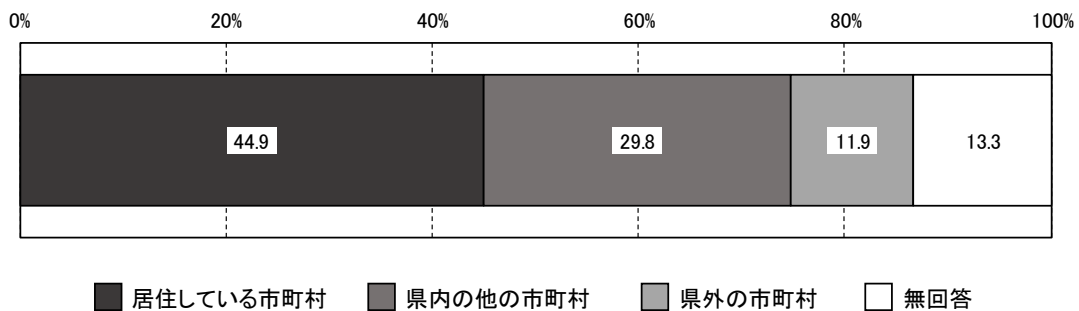


※ 「F-10 職業」で、自営業、自由業、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣と答えた方のみ

F-12 通勤、通学先

図 F-12 通勤、通学先

回答者数 (n = 1,059)※



※ 「F-10 職業」で、自営業、自由業、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣、学生と答えた方のみ